

「愛知123号」ブランド化推進協議会の取組について

～愛知県産米初の食味ランキング「特A」取得を目指して～

東野 敦（農業水産局農政部園芸農産課）

【令和元年10月29日掲載】

【要約】

「愛知123号」ブランド化推進協議会は、本県産米初の食味ランキング「特A」取得を目指して、「愛知123号」を活用した県産米のブランド化に取り組んでいる。

今年度は、2020年度に開始する本格栽培及び本格販売へ向けて、現地栽培試験、種子の生産及び生産者募集を開始している。

1 はじめに

近年、愛知県では夏季の高温によるコシヒカリの外観品質の低下が問題となっている。

このため、県では、コシヒカリの高温障害による品質低下を改善した良食味品種「愛知123号（品種名：なつきらり）」（以下、「愛知123号」）を開発した。同品種はコシヒカリと同等の食味を持つ上に、猛暑の年でも外観品質の良い米を安定して生産することが期待できる。

県産米は過去に日本穀物検定協会（以下、穀検）が実施する食味ランキングで最上級の「特A」を獲得したことがないことから、この水稻新品種を活用し、県産米のブランド化を推進するため、「愛知123号」ブランド化推進協議会（以下、協議会）を2017年4月に設立した。

2 協議会の概要について

（1）構成員

県、地域協議会（生産者、農協、農業改良普及課）、JAあいち経済連、愛知県米麦振興協会

（2）作業部会

協議会では、以下の作業部会を設置し、安定生産技術の定着や「愛知123号」のブランド化に向けた検討を進めている（かっこ内は各部会での協議内容）。

ア 特A作業部会（良食味安定生産技術に関すること）

イ ブランド作業部会（ブランド化に関すること）

ウ 種子作業部会（種子の確保・流通及び備蓄等に関すること）

3 協議会の活動内容

（1）2017年度の取組概要

ア ブランド米の一つの指標である食味ランキング「特A」取得を目指し、現地栽培試験を実施した。

イ 「愛知123号」の販売については、品種名「なつきらり」ではなく新たにブランド名を設定することを協議会として決定した。

(2) 2018 年度の取組概要

- ア 現地栽培試験の結果をもとに特A栽培マニュアル（暫定版）を策定した。
- イ 2020 年度に開始する本格栽培及び本格販売へ向けた推進方針（図1）を決定した。
- ウ ブランド名について、一般公募1,906件から候補を3つに絞り込み、商標登録出願した。

(3) 2019年度の取組経過

- ア 県内28の生産者による現地栽培試験の実施（約9ha規模）
- イ 富山県主要農作物種子協会に2020年産用種子（100ha程度）の生産を委託
- ウ 生産者登録要領を策定し、2020年産の生産者募集を開始

(4) 今後の予定

ブランド名の決定及びブランドマークの作成・決定、現地栽培試験の成績・食味検討、特A栽培マニュアルの策定、穀検による収穫サンプルの評価等を実施していく。

【ブランドの位置付け】

「愛知123号」は、①愛知県が育成したオリジナル品種であり、②米にこだわりを有する一般消費者をターゲットに、③希少な特A米として付加価値をつけた米として提供し、④県産米ブランドイメージを引き上げるリーディング品種として位置づける。

【販売エリア】 愛知県内限定販売（名古屋市を中心）

【販売方法】 コンセプトに協力的な特定店舗、こだわり飲食店

【顧客ターゲット】 米にこだわりを有する一般消費者

【販売価格】 県産米最上位の価格設定

【販売量】 2020年産 500ト（最終5000ト）

【作付目標】 コシヒカリの2割

【品質の確保】 一定の生産・出荷基準を遵守したもののみ名称・マーク使用

図1 推進方針



写真1 協議会員による生育状況の把握